

## 大学入試改革のあるべき姿とは何か？



中村 恵佑助教

# 教育行政学の視点で

た。近年も名称が変更されたり、教科が追加されたりと、今なお変化が続いていること。入試制度の仕組みと教育行政学。大学入試制度は、全国一斉に行われる大学入学共通テストや各大学が行う個別試験などで構成されています。これらの実施には、大

度の「内容（中身）」に関するものがほとんどでした。そんな中、中村先生は、文部科学省といった教育に関する行政機関や政治家、教育関係団体などにスポットを当て、制度がどのような

に作られ実施されているのかを明らかにする教育行政学の視点をを用いて、大学入試制度の「形成・決定過程」について分析しています。入試改革の難しさと関係者間の調整。大学入試制度は、携

わる関係者が多く、特定の関係者の意向で行おうとした、または望まれている改革が、他の関係者から理解を得られずに失敗に終わるという事例も起こります。例えば、共通テストが一度きりしか行われないことは度々問題視されますが、共通テストを複数回実施する技術が出来たとして

も、実際に政府内で検討した上で関係者間で合意できなければ実現には至りません。首の国民に教育の機会を均等に保障するため必要不可欠な仕組みや、それらが誰により、どのように作られ実施されているのかという教育制度の知られざる舞台裏を学ぶことができます。そうした内容やプロセスを明らかにす

探究心旺盛な小中高生の皆さんに向けて、弘前大学の先生たちのユニークな研究を紹介するこの連載。今回は「教育行政学からみる大学入試制度」についての研究です。大学入試制度は長い時間をかけ、時代に合わせ変化してきまし

が分かります。皆さんの中にも受験を見越し、今のうちから準備を進めている方がいるのではないのでしょうか。弘前大学の中村恵佑先生は、大学入試制度を「教育行政学」という学問の視点から分析し、研究を進めていま

一方、大学入試に関する研究において分析の対象とされてきたのは、適切な問題の作成方法や、受験生の能力をより正確に測れる選抜方法の考察など、制

切な試験問題や方法が開発されたり、社会が変化したといった要因だけでは改革されることはありません。改革のためには、いかにうまく関係者間で制度に対する意見のすり合わせを行うかが重要になるのです。最後に、中村先生からのメッセ

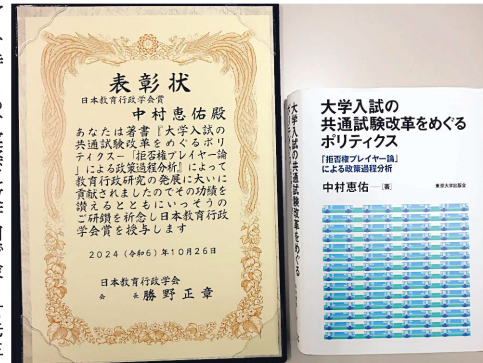
■研究のなしてを紹介！ひろだい探偵団は引き続き、本学の先生たちの面白い研究を紹介していきます。これまでの記事のバックナンバーもご覧ください。左の二次元コードからどうぞ。次回の掲載は令和7年3月31日です。お楽しみに。（担当：弘前大学研究・イノベーション推進機構 ライター…人文社会科学部4年 齋藤聖菜）



((38))



イラスト：弘前大学大学院地域共創科学研究科 赤沼しおり



研究成果をまとめた著書が、日本教育行政学会賞を受賞



※この画像は、当該ページに限りて陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。 令和7年2月24日 陸奥新報掲載